（書式２）

＜事務局使用欄＞**受付番号：**　　－

「台湾大学スプリングスクール派遣参加報告書」

京都大学文学部１年　（氏名）橋本充史

プログラムに参加する以前から、中国語圏に行き、現地の中国語に触れたいという意思を有していたが、今回の留学経験を経て、中国語を習得するには実際に中国語による生活を経験してみることが最重要事項の一つだという考えは一層深まった。ただし、目下の情勢を勘案すれば、むしろ今回のようなオンライン形式で、同様の留学をさらに続けたいという希望も萌芽した。中国語の授業では、短文の送受信が可能なチャット機能を活用し、聞き取れない語句あるいは伝わらない語句についての疑問を、後回しにせずその場で解決できる機会が多く、これは自身の未熟な中国語の進歩に大いに寄与した上、異文化に暮らす人との交流を言葉の壁をある程度克服しつつ深めることができる可能性に触れた。また、電子媒体で資料の共有が基本であるため、急遽発表課題を課されても発表資料の作成・提示が容易であり、ある程度質の担保された発表に挑むことができたと思われた。加えて、授業時間外でも先生が善意でまとまった量の作文の添削指導に対応してくださった。交流会では、場所を問わず様々な場所から日本語・日本文化に興味を持つ学生が参加してくださり、有意義な時間を過ごした。交流を経て、日本語をかなり流暢に話す現地の学生に、自分の中国語の習熟度を上げたいという意欲が刺激された。さらに、現地の学生との交友関係を作る機会が得られたため、新たな人間関係の構築を制限されるというオンライン留学の欠点を一定程度克服できて良かった。なお、普段私がＳＮＳをほとんど使わないことが文化交流中に仇となり、円滑に連絡先を交換できないという予想もしなかった問題に直面したが、留学中の良い経験の一つとなった。上述のように、以前は不満を多く耳にしていたオンライン形式による留学でも、今回は自身の学びを深化させることができた。無論、初めての留学だったためにさまざまな苦難も存在したが、多くの方々の支援のお蔭で無事修了できたことを心から感謝している。進路については、二年生次は一般教養科目を幅広く履修したいという考えがまだ上回っており、研究室選択や大学院進学等に直接影響を与えたとは言い難いが、「語学」という学問に向き合う上で避けることのできない学びにおいて一定の成果を上げたことで、今後の前途多難であろう中国語あるいは他の諸言語の語学学習にも前向きな気持ちで取り組めると思いたい。今後機会があれば、形式を問わず再度台湾に留学をしたいと考えている。